

第10号

# The Top Shelf

## Gaidai Library News



### 特集 Our Friend Finland

## 教育を大切にする国フィンランド

2005年に約半年間、フィンランドで在外研究を行って以来、フィンランドの英語教育と英語教員の養成について研究を続けています。その中で見えてきたのは、この北欧の小国が教育をとっても大切にしている点です。この教育重視の姿勢は、日本でよく見られる口先だけの空手形ではなく、生活の隅々にその形が見て取れる極めて堅実なものです。とにかく、国民一人ひとりが教育に対してとてもひたむきで、学校や教師に対しても絶大な信頼と尊敬の念を寄せているのです。6月初旬から8月中旬まで有給で2ヶ月半も夏休みを享受しているからと言って、教職に対する憧れが増大しこそすれ、教師に対する批判が増大することはありません。結果的に優秀な人材が教職に就くという良い意味での連鎖反応が見られます。教師は伝統的に「国民の蠟燭」と考えられてきました。真冬の暗い部屋の中に点された一本の蠟燭のように、国民に対して安心感とぬくもりを与え、これからの道先を示してくれる頼り甲斐のある頼もしい存在と見なされてきたし、現在でもその国民感情は色あせていません。我が国にとっても教育の大切さを再確認させてくれる国です。

外国語学部教授 伊東治己



皆さんにとってフィンランドのイメージはどのようなものでしょうか。

北欧家具、ムーミンなど日本でも「北欧ブーム」として人気のある国となっています。また、フィンランドは2019年1月に発表された「良い国指数 (Good Country Index)<sup>※</sup>」において世界1位を獲得し、世界で最も地球と人類に貢献している国ということが明らかになりました。文化面でも経済面でも魅力あるフィンランドを、この機会により詳しく知ってみませんか。

※ 備考：良い国指数はフィンランド日本大使館より参照 (2019年2月25日アクセス)  
<http://www.finland.or.jp/public/default.aspx?contentid=381619>

## Finland: A Nation that Loves Books

The following composite interview responses were kindly received from six of our Finnish study abroad students: Henna Ruukanen, Eve Mauno, Pauliina Peippo, Sonja Blom, Joel Jaakkola, and Antti Auvinen.

Overall, what should we know about Finland to understand the culture's connection to its libraries?

Finland is small, but proud, country of only five million people. We use two official languages, Finnish and Swedish, and education includes intensive English language training. The country has vast and beautiful natural rural areas, where many Finns enjoy keeping a second vacation home. Of course, we all love the Moomins, as our chief cultural ambassadors!



The country has a deeply collectivist mindset, and libraries—even university libraries—are open access to the entire population. Libraries provide games for children, hard copies of daily newspapers and magazines enjoyed especially by seniors, and in some libraries, you can even use 3-D printers or borrow bicycles. University students are generally required to submit a graduation thesis, which requires a lot of time in the library and very strict use of academic citations.

Anything unique about Finnish libraries?

Yes! Finland has an extensive network of library buses, or *Lempibussi*, to serve the whole population. When I was a child, the children were always so excited for the *Lempibussi* to come every Friday and park next to the school. Also, my grandma lives deep in the countryside and the arrival of the library bus is the highlight of the week. These mobile collections have a very good selection of new books, and specific books are available on request.

## 貴重書庫 フィンランドの民族叙事詩『カレワラ (Kalevala)』

『カレワラ』は、フィンランド東部のカレリア地方に伝わる口承詩をフィンランド人の医師エリアス・リョンロート(1802-1884)が採集・編纂し、1835年に初版、その後1849年に増補改訂版が出版されました。『カレワラ』の登場人物たちは、強い意志を持ち、目的に向かって粘り強くことを進める素朴で正直な人々で、普遍的なフィンランド人像を示しています。この本は、当時ロシアの統治下にあったフィンランド人の民族意識を鼓舞し、1917年の独立につながったとされています。



写真は、『カレワラ』をフィンランド語から日本語に完訳した本学名誉教授小泉保氏の蔵書の1冊です。(リョンロート編『カレワラ』第2版、1951年)



## 第1回学長杯ビブリオバトル開催

2018年11月30日、御殿山キャンパス・グローバルタウンのLEARNING COMMONS(図書館)1階プレゼンテーションルームで、「第1回学長杯ビブリオバトル」が開催されました。

当日は、中宮・御殿山両キャンパスから5人の学生が出場しました。出場者は読んで面白いと思った本を持ち寄り、読後に得られた感動や共感をプレゼンテーションしました。最後に参加者全員で一番読みたいと思った本に1票を投じて争いました。第1回学長杯は、メグ・ジェイ著『逆境に生きる子たち』を推薦した英語国際学部3年の堀口香菜子さんが獲得しました。



### ビブリオバトル体験記



ビブリオバトルって何!?そんな人が大半かと思います。職員の方や担当教授のお声かけもあり、3年前のビブリオバトルに初めて参加しました。そして今回、1年間の留学から帰国後、3年生でもまたもう一度、という思いで参加しました。このチャンプ本を選んだきっかけとして、審査員の方を含め会場にいる全ての人が悩み、苦しんでいることに対して、この本が何らかの答えや救いになればいいな、そんな本とのきっかけづくりができるといいな、と思い選びました。どんな言葉が心に響くのかは人によって千差万別です。丁寧に言葉を選び、どうすれば心に残るような発表ができるのかを考え、実践でき、新しい視点で本と向き合う貴重な機会となりました。結果的にチャンプ本に選んでいただきとても嬉しく、幸運だったと思います。これからビブリオバトルに参加することに迷う後輩には、是非挑戦してほしいと思います。ここまで自分の「好き」を表現できる機会は滅多にないと思います。



英語国際学部3年  
堀口 香菜子

### 図書館からのお知らせ

中宮と御殿山の両キャンパスの図書館を大いにご利用ください。

-  図書館での書籍の貸し出しは、1人10冊まで、期間は2週間です。
-  ラーニング・コモンズを利用される場合は、学生証を持参の上、中宮・御殿山、それぞれのキャンパスの図書館で初期登録してください。





おすすめの新着図書

図書館に所蔵の書籍です。ぜひ、手にとってご覧ください。



吉田裕 著

御殿山2F  
和文研究書

『日本軍兵士：アジア・太平洋戦争の現実』

先の戦争については、冷静な判断をしにくいですが、歴史が歴史たるためには、どのような立場に立とうと共通に抛らねばならない客観的事実の確定は必要である。本書は歴史書として、著者の個人的立場がどうあれ、われわれがこれからの議論の基礎とせねばならない日本軍、特に生身の兵士についての基礎的事実が提示されている。もっともそういった事実に対する本書後半の著者の考察こそ、それに対する異論(「後発」であることの文明論的意味等々)も含めて、色々と考えさせ啓発的である。

中央公論新社 ISBN 978-4121024657 (運営委員 平田一郎)



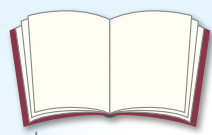
中室牧子・津川友介 著

中宮3F  
一般和書

『「原因と結果」の経済学：データから真実を見抜く思考法』

「因果関係」と「相関関係」を混同している人は多いのではないか。この違いを理解せず、原因と結果を正しく見抜くためには、思い込みや根拠のない通説に惑わされ、間違っただ判断を下してしまうだろう。ビックデータなどのさまざまな情報が氾濫する中、正しい関係を導く因果推論はどのように行えばよいのだろうか。この著者たちはデータから真実を見抜く方法を明快に解説している。正しい思考法を身に付けるため、この著書から因果関係を示唆する科学的根拠(エビデンス)の理解を深めるべきである。

ダイヤモンド社 ISBN 978-4478039472 (運営委員 南村圭哉)



Edited by Beth Miller

中宮2F  
一般洋書

Women in Hispanic Literature: Icons and Fallen Idols

Women in Hispanic Literature comprises a broad spectrum of literary works, and includes scholarly articles of literary criticism, as well as literary works from a selection of different genres including the novel, short story, drama, lyric poetry, history, didactic prose, and autobiography. Each article has two goals, one of which is to present material in a new and engaging way, and the second is to proffer new contributions to Hispanic literary studies. Despite the book's having been published over twenty years ago, the contents remain remarkably cogent and germane. A highly readable collection of essays!

University of California Press ISBN 978-0520302754 (運営委員 FLAVIN, Philip)



Edited by Allan Kulikoff

中宮2F  
一般洋書

Abraham Lincoln and Karl Marx in Dialogue

Allan Kulikoff draws connections between the ideas and writings of these two critically-important nineteenth-century individuals. This book includes a combination of analytical essays by Kulikoff and excerpts from both Lincoln's and Marx's written works about slavery, labor, and the American Civil War. Lincoln and Marx shared similar concerns about problems associated with the nineteenth-century global economy, including the role of slavery in the US South. Though the goals of their political ideas varied considerably, Kulikoff finds a lot of similarities in their descriptions of the overriding economic problems of the Atlantic world economy of the time.

Oxford University Press ISBN 978-0190210809 (運営委員 BAILEY, Scott C.M.)

《編集後記》

新元号が発表され、新たな時代への節目を迎えようとしています。グローバル化が進行する中で、東京オリンピックやパラリンピックを契機に「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の取り組みも始まっています。身近なこととしては、個を尊重する一方で「心のバリアフリー」への取り組みも期待されています。本号では、教育や医療において注目されるフィンランドを取り上げました。留学生の方々のお話から、図書館を愛するフィンランドでの暮らしの一部が垣間見られ、フィンランドに魅力を感じた方も多いのではないのでしょうか。

次号は10月発行予定です。なお、本号発行にご協力くださった方々に感謝申し上げます。

図書館学術情報センター運営委員会

\* 利用案内は図書館学術情報センターのホームページの開館カレンダー及び利用ガイドをご覧ください。

The Top Shelf  
第10号  
2019年4月発行

関西外国語大学図書館学術情報センター  
<https://library.kansai.gaidai.ac.jp/>

[中宮キャンパス]  
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1  
TEL (072) 805-2801 (代)

[御殿山キャンパス・グローバルタウン]  
〒573-1008 大阪府枚方市御殿山南町6-1  
TEL (072) 805-2701 (代)

